

平成27年千葉市教育委員会会議
第4回定例会会議録

千葉市教育委員会

平成27年千葉市教育委員会会議第4回定例会会議録

日時 平成27年4月15日(水)

午後2時00分開会

午後3時10分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員	委 員 長	和田 麻理
	委 員	中野 義澄
	委 員	内山 英夫
	委 員	明石 要一
	委 員	小西 朱見
	教 育 長	志村 修

出席職員	教 育 次 長	森 雅彦	指 導 課 長	伊藤 裕志
	教育総務部長兼企画課長	米満 実	保 健 体 育 課 長	中村 宏
	学 校 教 育 部 長	磯野 和美	教 育 セ ン タ ー 所 長	池田 亘宏
	生 涯 学 習 部 長	大崎 賢一	養 護 教 育 セ ン タ ー 所 長	植草 伸之
	千 葉 高 等 学 校 長	三木 千恵子	生 涯 学 習 振 興 課 長	増岡 忠
	稲 毛 高 等 学 校 長	植草 茂生	文 化 財 課 長	志保澤 剛
	総 務 課 長	石野 隆史	中 央 図 書 館 長	松尾 修一
	学 校 施 設 課 長	真田 賢一	総務課人事・労務担当課長	武 大介
	学 事 課 長	渡邊 博典	総務課総括主幹	相楽 俊洋
	教 職 員 課 長	伊藤 剛	学 事 課 長 補 佐	浅井 滋
	県 費 移 譲 課 長	大野 治充		

書 記	総務課総務班主査	大塚 暁	総務課主任主事	杉山 隆
	総務課人事班主査	岡田 裕樹	総務課主任主事	佐久間暁子
	総務課主任主事	高桑 太綱		

(開会に先立ち、出席職員の紹介を行った。)

1 開会

和田委員長より開会を宣言

2 会議の成立

全委員の出席により会議成立

3 会議録署名人の指名

和田委員長より内山委員を指名

4 会期の決定

平成27年4月15日(1日間)ということで全委員異議なく決定

5 議事日程の決定

議事日程を全委員異議なく決定

6 会議録の承認

平成26年第第11回定例会会議録を全委員異議なく承認

7 議事の概要

(1) 非公開事項の決定

報告第4号を非公開審議とする旨決定

(2) 報告事項

報告事項(1) 平成27年4月1日付県費負担教職員の人事の概要について
伊藤教職員課長より報告があった。

報告事項(2) 市立高等学校の進路状況について

三木千葉高等学校長及び植草稲毛高等学校長より報告があった。

(3) 議決事項

議案第17号 千葉市地域文化財の登録について

志保澤文化財課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり
可決した。

(4) 臨時代理報告

報告第3号 千葉市立学校職員服務規程の一部改正について

武総務課人事・労務担当課長より報告があった。

報告第4号 県費負担教職員の処分について

教職員課長より報告があった。

(5) 発言の要旨

報告事項(1) 平成27年4月1日付県費負担教職員の人事の概要について

和田委員長 教職員課長、報告をお願いします。

伊藤教職員課長 報告事項(1)「平成27年4月1日付県費負担教職員の人事

の概要について」、報告します。

管理職人事については、3月11日の教育委員会会議第1回臨時会で議決をいただきました。その後、3月13日に各学校に内示を行い、30日に辞令交付式を実施、4月1日には異動者が異動先に着任しています。各学校においては、新年度の体制となったところですが、改めて人事異動の概要について報告します。

まず、今年度の異動総数ですが、小・中・特別支援学校を合わせて1,291人で、昨年度末より122人の増となっています。

また、新規採用教職員数ですが、小学校109人、中学校57人、特別支援学校10人の計176人で、昨年度より15人の増となっています。そのほかに養護教諭4人、事務職員4人、栄養職員5人、合わせて13人を新たに採用しました。これにより、平成17年度以降、今年度までの10年間において、合計で1,934人の新規採用教職員を採用したこととなります。

次に、管理職の登用ですが、校長の新規登用者数は51人、副校長について0人、教頭が54人で、昨年度より校長が2人増、副校長は1人減、教頭は9人の増加となっています。

次に、管理職における女性管理職の数ですが、校長27人、副校長1人、教頭25人の合計53人となり、昨年度より2人増となっています。

最後に、同一校7年以上の勤務者の解消率ですが、小・中学校とも昨年度並みに解消され、学校の活性化につながっていくものと思われまます。

なお、産休、育休、休職、療養休暇中により異動が困難と見込まれる者、または校長の裁量権の拡大により残留させた者については、含まれていません。

中野委員 7年以上の勤続者の異動ですが、解消率は同じくらいということですが、この異動した教員の中で勤務年数が一番長い方は、どのくらいだったか教えてください。また、残った方が15人、12人とそれぞれ小・中学校でいると思うのですが、この中で一番長い方は何年くらいになるのか、教えてください。

伊藤教職員課長 小・中学校の同一校連続勤務者で一番長い者は10年目が1人います。特別支援学校は12年目が2人います。小・中・特別支援学校において、新規採用者は最初の異動が3年、小・中では次の異動が7年ごと、特別支援学校では10年ごととなっています。この特別支援学校の10年ごとは、平成24年度からこれまでの

7年を延長しました。

先ほど申しましたが、学校事情等において残留希望の場合は、1月に全学校長に対し教育長が面接を行っており、その中で校長の意向を確認し、そして教育長の判断を十分に踏まえた上で、本課でも再度協議を行い、残留及び異動の決定をしています。

和田委員長 今答えていただいた10年目、12年目というのは、今年異動しなかった教員に関してですか。

伊藤教職員課長 そうです。

和田委員長 中野委員からの質問で、異動した教員の中で最長だった方というのはわかりますか。

伊藤教職員課長 異動した教員の中では、小・中学校で8年という者が何人かいます。特別支援学校は、先ほど12年が2人ということで異動しなかったわけですが、11年目等で最終的に異動という形になっています。

和田委員長 わかりました。

小西委員 女性管理職数ですが、校長が27人ですが、これは全体の管理職数からいくとどのくらいの割合になるのでしょうか。また、前年や、一昨年、これまで数年間の推移がわかれば教えてもらいたいです。

伊藤教職員課長 女性管理職数については、平成23年度からの推移ですが、平成23年度が12.5%、平成24年度が13.7%、平成25年度が同じく13.7%、平成26年度が14.5%、平成27年度が15.3%となっています。割合率というのは、基本的に校長、教頭のポスト数になります。したがって、複数教頭がいる学校があるので、教頭の場合、全ポスト数に対して何%という形になっています。

ちなみに、平成27年度は、校長のポスト数に対しての女性管理職の占める割合が15.9%、教頭が14.6%となっています。

小西委員 年々、徐々に増えてはきているという形ですね。

伊藤教職員課長 はい。

和田委員長 人数と学校数を考えれば大体わかるのですが、今、説明を加えていただき、とても良くわかったので、次年度から、できれば表の中にパーセンテージも加えてもらえれば一目瞭然となるので、お願いします。

それと、異動総数について、小学校に関しては、昨年度が通常

よりも少し少なかったという説明を以前してもらったかと思うのですが、特別支援学校が平成25年度に比べると2割くらい少ないというのは、どのような理由があるのでしょうか。

伊藤教職員課長 特に大きな理由はなく、異動対象者が多かったということになります。ちなみに、これも平成23年度からを見ると、平成23年度が34人、24年度が39人、25年度が50人、26年度が39人ということで、ほぼ30人から40人の間となっています。

和田委員長 どちらかというとも25年度が多かったということですね。わかりました。

明石委員 新規採用教員数の欄外の栄養職員が新規で4人とありますが、これは全員が栄養職員なのか、栄養教諭は入っていないのかということを知りたいです。もし入っていないければ、千葉市の栄養教諭が今何人いるかを、わかったら教えてほしいのですが。

伊藤教職員課長 新規採用の栄養職員の4人の中に栄養教諭は含まれていません。本年度までの段階で栄養職員は62人いるのですが、その中で25人が栄養教諭です。栄養教諭については、毎年10月に栄養教諭採用候補者選考を県と共同で実施し、その選考に合格した者を栄養教諭として採用しているところです。ちなみに、平成26年度は6人の栄養教諭が誕生しています。

報告事項(2) 市立高等学校の進路状況について

和田委員長 千葉高等学校長、稲毛高等学校長、順に説明をお願いします。

三木千葉高等学校長 今年3月の千葉高校の卒業生は普通科280人、理数科40人の計320人でした。進路決定先は、大学への進学が245人、専門学校が3人、就職が1人、浪人が70人です。進路決定率は78%でした。就職はコンピュータープログラム関係の会社で、在学中からその会社のシステム開発をしていて、そのまま技術を生かして、大学進学ではなく就職を選んだ男子生徒が1人いました。浪人数は昨年よりも10人ほど多くなりましたが、浪人しても夢をかなえたいという生徒たちが頑張っています。

進路概況ですが、今年度の国公立大学の合格者数は、現役が70人、浪人が18人の計88人でした。難関大学としては、一橋大学、北海道大学、名古屋大学などに合格しました。千葉大学は現役が37人、浪人が5人の計42人です。本校の開校から千葉大学の最高合格者数は、昭和53年の29人でした。今回の42人、それから現役の国公立の合格者数70人は、本校始まって以来、

一番良い結果となりました。

難関の私立大学の合格者数ですが、現役だけを報告しますと、早稲田大学11人、慶應大学5人、上智大学10人、東京理科大学27人です。MARCHは資料のとおりです。私立大学は国立大学と違い、1人の生徒で複数の合格を得ることができるので、合格者数は延べ数となっています。大学別、学部別の詳細については、資料に挙げています。

今回の大学の入試結果の特徴としては、現役生の国公立大学の合格者数が大幅に増加したことです。進学型単位制の導入後、国公立大学の合格者数が増加しましたが、毎年40から47人で推移をしてきました。今年度の70人は例年よりも大変多くなっています。少子化により、大学のレベルが両極化する中で、依然として国公立大学の難易度は高く、さらにスーパーグローバル大学の指定を受けている全国37大学は特に難しくなっています。本校生徒が目指している大学の一つである千葉大学もその一校になっていまして、国公立大学がなかなか難しい中で、千葉大学の42人合格はよく頑張ったと思っています。一つには職員の指導の成果のあらわれであると考えています。

次に、SSH、スーパーサイエンスハイスクールに関する進路概況を説明します。今年3月は、初代のSSHコースの生徒22人が卒業しました。3年生になって急に伸びてきていると感じていましたが、22人中10人が国立大学に合格しました。受験だけを考えると、このSSHコースは、課題研究等があり、学習の負担が大きいことから、生徒から敬遠されがちなのですが、指導の成果が出て、このような形で大学に合格していくという点では、良い取り組みであり、一つの指標になるのではないかと考えています。

それから、普通科と理数科別の合格者数ですが、国立大学の合格者だけを見ると、理系教育学部を除くと、理系学部の合格割合が60%で、かなり理系学部が多くなっています。全体を見ますと、文系、理系は半々になっていますが、国立大学は理系学部の合格率が高いことがわかっています。

全体的にですが、これからも生徒が第一希望の難関大学を目指して、自学自習習慣を身につけるように、最後まで頑張るように指導を行って参ります。

特に、本校の自学自習習慣に多少課題があることがわかったた

め、今年度から本校独自の記録用のダイアリー、「スタディレコード」を作り、これを使い指導をしていきたいと思っています。生徒自身のPDCAサイクルを用いたような学習の指導法を確立していきたいと思っています。

また、平成19年度の単位制導入から、ずっと1単位時間45分の授業を行って参りましたが、今年度から50分授業に変更しました。毎日50分で7限まで授業を行っていただきますので、ホームルームが終わると夕方の4時半になってしまうのですが、1年から3年まですべての生徒たちが新学習指導要領によるものとなり、旧課程とは違い、学ぶ内容も多く、さらに生徒が自主的に学ぶことが求められていますので、標準時間単位の50分を導入することにして、4月から始まっています。

それから、SSHについてですが、昨年度は第2期SSHの3年目ということで、中間評価年でした。昨年11月に文部科学省で50分のヒアリングを受けて参りましたが、かなり厳しい質問もありましたが、今回、中間評価だった学校が全国で73校ありましたが、最高評価を受けた5校のうちの1校でした。そのような意味で、取組みも大変評価をしていただいたところです。評価としては、職員全体で取り組んでいることや、生徒の教育に重点を置いた授業内容であること、クロスカリキュラムが職員の授業力向上や、組織的な取組みであることが評価されています。

今後は、2年間残っていますが、来年度には第3期のSSHの指定の採択に向けた計画書を出さなければならない年度になっています。国は事業を縮小しているため、採択校がかなり少なくなっています。これから第3期に向けていろいろな取組みをして、なるべく切れがないような形で採択されるように努力していきたいと思っています。

植草稲毛高等学校長 本校は平成15年度に附属中学校を併設しました。今回、普通科で3回目の内進生が卒業しました。また、各学年1クラスの国際教養科があります。真の国際人の育成ということを目指して教育活動に取り組んでいる次第です。

今回の進学状況については、国公立大学は、昨年度の33人に対し36人と微増しました。特筆すべき点としては、東京大学に1人合格したこと、また大阪大学、東京工業大学、東京外国語大学等の難関大学に合格者が出たということです。地元の千葉大学は、先ほどの千葉高校でも説明があったように、非常にグローバ

ル化が進んでいますが、そちらも昨年度に比べ倍増の16人が合格しています。

中高一貫の内進生の実績が顕著であることは間違いありませんが、昨年度と同様、高校からの入学生である外進生の健闘も非常に目覚ましく、大阪大学、東京外国語大学に合格した2人はいずれも高校からの入学生です。国公立大学を実進路先として選んだ生徒は、昨年度同様31人となっています。

私立大学については、早慶上智、ICUやGMARCHと言われる難関大学を初めとする学力上位校への合格実績を残しています。おおよそ昨年度と同じような進路先を選択しているのが特徴です。特に語学系の教育に力点を置き、自ら情報発信できる人間の育成を目指す本校では、3年間学んだ生徒については外国語系の学部へ進学を目指す者がいるのですが、それだけではなく、英語を道具として用いて、自分の興味のある学部、学科を多岐にわたって選択する傾向があります。

今年度の内進生については、昨年度に比べると国公立志望が多くなっています。私立大学を受験する数は、昨年度に比べると減少しています。合格者の総数ですが、先ほど三木校長からもありましたように、私立大学は複数併願できるわけですが、そのようなことから考えると、合格者総数の減少ということはありませんが、進路先としては昨年度とほぼ同様の内容になっています。良好な結果を残してくれたと感じています。

また、学力だけではなく、シームレスで6年間伸び伸びとした学生生活を送り、多くの生徒が自己実現を果たして巣立っており、自分の行ける大学よりも行きたい大学という思考に移っているところがあります。中高一貫校は人間教育という観点からも、有効なメソッドだと実感しています。

昨年度に引き続いて、外進生、内進生が互いに切磋琢磨して、学習のみならず部活動や生徒会活動、その他実績においても、以前の稲毛高校とは明らかに違う相乗効果が発揮されていると考えています。

中野委員 千葉高校ですが、私の分野の医学部であったり、看護、医療関係というのは、ほとんどは普通科から医学部に進学していると思いますが、大学学部別の数字を見ますと、理数科卒の生徒が入っている大学や学部は、ほとんど普通科卒の生徒も入っている傾向があると思うのです。そうすると、ここに来たら理数科ならで

はこの進路が、ほかとは違うという特徴が、資料を見るだけだと感じられないのですが、それについての考えを教えてください。

三木千葉高等学校長 理数科についても、逆に文系との差は余りなくて、教育学部の数学専攻や理科専攻になっています。

中野委員 理数科というのは、数学や理科の教員を目指す人が中心の科ということですか。

三木千葉高等学校長 理数科は、理科と数学の教科が大変多く、また、課題研究や、そのような特色のある教育を行っていますので、やはり進学先も学部的には理系学部が多くなっています。

中野委員 そうだとは思いますが、理数科の生徒が入っている学部を見ますと、普通科の生徒も大抵入っているような学部がほとんどなので、そうすると理数科の意味というのが果たしてどうなのかなと少し感じました。

三木千葉高等学校長 本校は理数教育に特色があるので、普通科の生徒も半分が理系なのです。結果だけをまとめますと、このような形で普通科でも理系が多いような形での結果になっています。ですが、中には、今年は浪人してしまったのですが、理数科の課題研究等を利用して、それをもって入試に臨む生徒がいます。課題研究で公募推薦的なもので合格をしている生徒も出ています。

結果的にはそうなってしまいましたが、本校は理系に特色があるので、普通科であってもやはり理系に進むような生徒が多くなっています。

明石委員 関連した質問ですけれども、中野委員と同じ疑問があるのですが、理数科を設けたがゆえに普通科が刺激されて理数科が増えてきたのか。また、理科や数学の教員が普通の高校よりも人員が多いのか少ないのか。2つ目は、人員は差がないが、数学と理科の優秀な教員をそろえているから来たのか。要するに、40人も頑張ってくれているが、違う280人がとても頑張って理系にも行っているのか。これは非常に良いことなのだけれども、その説明がうまくつけば良いかと思ったのです。

三木千葉高等学校長 まず、理科の教員ですけど、現在13人います。これはほかの学校よりも大変多くなっています。これは理数科があるために、教員定数の配置が多くなっています。それを理科に持っていくことができます。それから、理数科があるために課題研究が設定されており、そこに理科の教員をたくさん配置しなければいけないため、その点、理科の教員が多く必要となっています。そこで指

導力が上がった教員が同じく普通科の生徒たちを指導していますので、ほかの学校から比べたら理科の教員の質は高くなっていると思います。

それから、SSHをやっている効果があり、いろいろな大学の教授や、全国的ないろいろな会に出て、そこで勉強してきて指導法に生かされている面があるので、それらが相乗効果になっていると思っています。

ただし、一般人事において教員が回ってきているため、校長としては本当に優秀な教員が欲しいのですが、なかなかそううまくいかず、いろいろ個々の質があります。しかし、すべての授業を英語で全部できるような理科の教員や、実験についてもかなり優秀な指導者もいますので、そのような面ではいろいろな良い影響になっているかと思っています。

そのため、理数科があって、それが学校のメリットになって、普通科の生徒たちにも、そのような影響で良い結果になっているかと思っています。

和田委員長 教員も市立千葉高校に来ることによって成長されるということがとても大きいのかと、今の話を聞いて思いましたし、スーパーサイエンスハイスクールの中間評価の中でも、やはり教員の指導力、それからチームワーク、協力関係が高いレベルだというような評価を得ていますので、そのあたりが非常に効果を上げたのかと思います。

全生徒数の半数が理系というのは非常に多いと思うのですが、普通は大体何割くらいが理系に行くものですか。

三木千葉高等学校長 現在、いろいろ高校がありますが、トップと言われている、それこそ上位10番以内に入る学校で、上のほうになると理系のほうがやや多い傾向があります。県立千葉高校や船橋高校などは、やはり理系のほうが多いです。千葉東高校も理系のほうが多いかと思っています。ちょうどその次のところが本校や佐倉高校などですが、大体半々くらいになります。それよりももう少し行きますと、徐々に文系が増えていきますので、3割理系、7割が文系というのが普通の進学校のあり方だと思います。2割、8割というところが多くなってきますので、本当のトップ進学校しか理系の数は多くないというのが現実になっています。

明石委員 千葉大の教育学部で、センター試験で理科の物理を取った方は5%です。教員養成は必ず文系なのです。だから、志村教育長

も困っているのですが、千葉市は理科を頑張ってくれているけれども、全体的にやはり理科の教員が少ないのです。センター試験で化学と物理を選ばないのです。大体地学あたりで来るなど、きれいに物理でカッティングします。

和田委員長 一番難しいですからね。

明石委員 それから、これだけ頑張ってくれているのですが、この頑張った校長と教員に対するご褒美はどのような形でつけるのでしょうか。やはりどこかで評価してあげないと、頑張ってくれているのですから。高校の人事権は話があったように県にあるのです。それ以外に市として何かうまく次長あたりが考えてくれたら良いと思います。

三木千葉高等学校長 教育委員の方に本校の教育活動のいろいろな場面で学校に来てもらい、見てもらっています。実は、いろいろな方に学校に来てもらい、少し声をかけてもらうことが一番だと思っていますので、自分たちがやっていることが正しく評価されて、今までやってきたことが自分たちも頑張った甲斐があるというようなことをいろいろな場面で言ってもらえることが、教員や我々にとっての一番の褒美だと思います。

和田委員長 私たちが訪問することが教員のモチベーションにもつながるということでしたので、引き続き訪問等をして参りたいと思います。

内山委員 全国的にそうだと思いますが、文系が全体的に多いと思うのです。女子生徒について言えば、国立大への挑戦と、文系、理系の選択。また、女子大という選択もありますから多少傾向が変わってくるかもしれませんが、男子生徒と比べて大きな差がありますか。両校教えてください。

三木千葉高等学校長 実は、今年の理数科は女子が多かった年なのです。そうすると、やはり昔からの日本の悪き習慣というか、行けるところに入ってしまおうというようなことがあります。通常的には女子のほうが成績が良かったりする例もあるのですが、なかなか最後の最後まで挑戦するというのは、家の都合もありますが、そのような傾向があります。

そのため、本校は昨年、入試の結果が多少下がりました。これはここ10年間で一番女子の多い年だったのです。やはり私学で決まってくると国立まで頑張れない傾向があります。ですから、学習能力的に見ると、男女でそれほど差があるわけではないので

すが、最後の勝負のところになっていくと、やはり男女差が出てくるというのは事実としてあります。

植草稲毛高等学校長 稲毛高校は、やはり国際ということを銘打っています。そのようなときは女子が元気になってきます。今年度も東大に行った生徒は女子です。そのような傾向が強くなっています。

今、三木校長からも話があったように、女子が非常に頑張っていて、特に文系で頑張っているというのがある反面、やはり都市部、東京に近い私立の文系志向が強くなりつつあります。ですから、国公立まで頑張るといっても、私立の上位校で満足するといふところがなきにしもあらずといふところがあります。どちらかといふと、そのようなところが出ていると思います。

ただ、いろいろな意味で切磋琢磨してきて、男子も頑張ってきているので、少し国立志向が高まりつつあるといふところがあります。

明石委員 稲毛高校に質問したいのですが、将来的にはスーパーグローバルハイスクールに手を挙げるのか挙げないのか。実は、成田国際高校が去年手を挙げて、だめで、今年挙げてうまくいったのです。いろいろ作戦を練りましたが、やはり一発で受かることはなかなか難しいです。先ほど三木校長からありましたように、最近希望者が増えていますから、やはり準備をしておかないといけませんが、そろそろ稲毛高校もスーパーグローバルハイスクールを目指してはどうでしょうか。

植草稲毛高等学校長 文科省の進めているSSHに対して、SGH、スーパーグローバルハイスクールということで、2年間の指定があります。今、明石委員が言ったように、成田国際高校は今年指定されているようです。

稲毛高校についても、教育委員会とその辺いろいろ検討しており、まず一つ報告したいのが、3月17日に教育委員会の企画課、学事課と稲毛高校で、グローバルスクール化推進検討委員会を持ちました。ただ、稲毛高校で、すぐに具体的に行動していくかといふと、まだまだもう少し時間はかかるかと思いますが、少しずつそのような歩みをしているといふことだけ報告します。

明石委員 専門ではありませんが、せっかく千葉市に神田外語大学がありますから、同大学との連携など、ある特色を出していかないと、みんなグローバルと言っているのです、長崎でやるグローバルと千葉市のグローバルは違うので。神田外語大学なども当然ですが、

千葉大学も今度は国際教養学部を作りますから、英語だけで授業をやるなど、そのようなところと連携するという話や、今度は森田知事が提案しているように、幕張メッセでオリンピックやパラリンピックを開催するなど、そのような千葉市の地の利を出していかないと、なかなか厳しいかなという感じがしていますので、ぜひ検討してもらいたいと思います。

和田委員長 両校とも国立への志向が強まり、国公立の入学者も特に今年は増えているようなのですが、一方でMARCHも含めた難関私立大学の入学者が、昨年が多かったということもあるのかもしれませんが、少し下がっているようなのですが、この理由や原因は考えられますか。

三木千葉高等学校長 先ほど申し上げましたが、早稲田、慶應、上智、東京理科大学あたりまで頑張れる生徒は、もう少し頑張ると国立大学へも行けるのですが、前年度はそこで決めてしまったという傾向があります。旧教育課程が昨年で終わっているため、そこで決めてしまったというのがあり、昨年は難関の私立大学が多くなっています。

それから、やはり今、国立大学がかなり特色を出して頑張っていて、実は本校は理系の学部への進学者が多いのですが、かなり高価な施設を本当に少人数で使えます。難関私立大学へ行きますと、同じ設備を40人くらいで使わなければいけないというようなこともあり、生徒たちはそこをよく知っているので、やはり入った後の教育環境のことを考えて、国立大学に行ったほうが良いのではないかというような傾向にあります。

そのため、同じ難関であっても、国立大学のほうが教授1人当たりの学生数が相当少ないです。国立大学は、教授1人当たりの学生数が15人から20人に対して、難関私立大学では、教授1人当たり30人から40人くらいとなります。きめ細かな指導ということでは、やはり国立大学のほうが良いのではないかというようなこともあり、そこをきちんと理解させて国立大学を目指すような指導もしているため、そのような生徒が増えているというのが実態です。

和田委員長 学費も安くて、指導も良いのであれば、国立のほうがずっと良いということになりますね。

今のところで少し聞きたいのですが、前半の部分の説明で、私学に受かった生徒がそのまま国立まで頑張らなかったという話がありましたが、この人数は入学者ではなくて合格者ですね。

三木千葉高等学校長　そうです。合格者です。

和田委員長　ということは、難関私立大学の合格者がそもそも少なかったということになりますね。

三木千葉高等学校長　はい。受けないで、国立だけを目指すような子どもが増えたということも1つあります。もしそこがだめでしたら浪人をしようと考えている生徒が多いです。もともと国立は5教科7科目もしくは8科目になっていますので、やはり国立を目指す生徒は満遍なく取れるように勉強します。難関私立大学は3教科のため、そのような意味では、作戦としては満遍なく取れるほうを中心に考えようという受験の志向もあります。

ただ、私どもは、やはりこれからの社会は文系、理系というのは死語だと思っています。すべての教科をきちんと学ばせる、これが本校の教育方針ですので、そのような意味では、国立大を目指すさせるというのは本校の進路指導の原点でもあります。

和田委員長　わかりました。千葉大学を受けた今年の受験者数を見ても、100人以上が受験しているということなので、素晴らしいと思いました。引き続き頑張ってもらいたいと思います。

植草稲毛高等学校長　稲毛高校ですが、千葉高校と同じようなところがあります。先ほどから議論にあったように、実進学数は、掲載されている合格者数と状況が異なります。例えば明治大学は、見てもらおうと昨年から20人くらい減っているように見えるのですが、実際に進学している者は昨年が18人に対して、今年21人ということで、実進学数としてはほぼ横ばいです。ですから、志向としてやはり国公立に移りつつあるかなというところがあります。

私も進路指導をずっと長くやっていましたが、進学が伸びていく学校というのは、必ず国公立に少し転換する、いわゆる階段の踊り場的な時期があります。ちょうどそのようなところに差しかかりつつあるのかと思います。

千葉高校もそうですが、稲毛高校もまだまだ国公立志向は高くはないです。というのは、例えば同じくらいのレベルの学校、県立であれば佐原高校や木更津高校や長生高校で、佐原高校は大体80人くらい、木更津高校が50人くらい、長生高校が60人くらい国公立に進学しているという数字から見ると、もっと国公立志向の生徒がいても良いのかと考えています。

和田委員長　引き続き両校の特色を出しながら良い方向に、ターニングポイントという話がありましたが、大事な時期だと思っていますので、

よろしくお願ひしたいと思ひます。

議案第17号 千葉市地域文化財の登録について

和田委員長 文化財課長、説明をお願いいたします。

志保澤文化財課長 議案第17号「千葉市地域文化財の登録について」です。名称は黒砂分教場の記念碑、員数は2基です。所有者は黒砂第一自治会、所在地は稲毛区黒砂4丁目です。

詳細については、参考資料で説明します。

趣旨ですが、千葉市文化財保護条例第19条第1項の規定により、黒砂分教場の記念碑を新たに千葉市地域文化財として登録するものです。これは9件目を目指すものです。平成27年3月17日に開催しました平成26年度第2回千葉市文化財保護審議会において、当案件について諮問し、了承する旨の答申が得られたものです。

地域文化財の登録制度についてですが、この制度は、平成19年4月に千葉市文化財保護条例の改正を行った際に、市指定文化財の指定制度を補完する目的で新設されたものです。登録は指定に比べ、保存等にかける制度が緩やかになっているものです。具体的には、現状変更などを行う際に、許可が必要な許可制に対し、登録は届出制となっているものです。市指定文化財は、市全体として例えば歴史的、学術的価値の重要性を基準にしていることに対し、地域文化財は、そのまちの特定のエリアの方たちの住民生活に密接に関係しているということなど、地域性を重視しているものです。

次に、黒砂分教場の記念碑についてですが、千葉市稲毛区黒砂4丁目、新港横戸町線黒砂陸橋脇の敷地に建っている2基の石碑があります。明治8年に黒砂村民により創設された黒砂小学校は、近隣の登戸小学校や弥生小学校の分教場として、昭和29年3月まで存続し、約80年にわたり地域の発展と教育の向上に寄与して参りました。黒砂分教場の跡地は、平成14年、新港横戸町線工事により、旧黒砂本村とともに黒砂陸橋の橋の下に姿を消したものです。このため、黒砂分教場の存在を示すものはこの記念碑のみとなり、当地域の歴史を知る上で重要なものであるということから、地域にとって大変貴重なものとして今回登録したいものです。

2基の説明ですが、1基が校地購買記念碑です。大正3年に建立されたもので、借地であった小学校の敷地を購入するため明治

40年に黒砂村の共有林を売却し、その資金に充てたということが刻まれています。ここには40年に売却したと書いてありますが、売却することを決め、実際に売却したのは41年です。

もう1件が学校敷地寄附記念碑です。これは昭和13年建立です。小学校に隣接する土地が学校の敷地として寄贈されたことが刻まれています。具体的には86坪寄贈されたということが記載されています。

内山委員 私の住んでいるすぐ近くなのですが、地域の方々がこのような文化財に関して非常に熱心に取り組んでおられ、廃却されそうなものを大切に今まで守ってきて、今回ようやくこのように認められたことは大変うれしく思います。そのような意味では、やはり教育に対する地元の皆さんの姿勢が何となしにわかる気がします。ぜひ、これからも大切に守っていただきたいと思います。

明石委員 私は千葉市内に分教場があったことを初めて知ったので、良いことだと思うのです。そこで聞きたいのは、このような文化財を決める基準についてです。例えばある自治会が手を挙げてお願いすれば、審議会で審査してくれて答申を出すと思うのですが、どのようなところが地域文化財の候補になり得るのか。分教場はそれこそ小豆島の「二十四の瞳」しか知りませんから、良かったですね。

志保澤文化財課長 ただいま明石委員から話があったことは、実は審議会の中でも指摘があり、歴史的・学術的価値があって、その地域の方にとって大変貴重だということしか、実は我々では基準を持っていませんでした。現在、石碑についても、同じような学校の跡地の記念碑というものがありますので、市内にどれだけ石碑があるか、それをもう一度探るということと、それから、どのようなものが基準にふさわしいのか検討に入っているところです。一般的に文化財として保存する場合には、破壊に瀕している、それがなくなってしまうと、もうその歴史を後世に伝えることができなくなってしまうという場合に、今までは文化財として一つの判断基準として参りましたので、その辺をもう少し具体的にこれから考えたいと思います。

明石委員 このような質問をしたのは、実は千葉大学教育学部の千葉師範とう、女子師範が千葉駅の前にあったのです。昭和20年の7月の大空襲で爆撃を受けて千葉師範の女性が3人亡くなってい

るのです。その同窓会の記念碑が、千葉そごうの大きなメイン道路にあるのです。例えば、学生たちが学徒出陣して亡くなった記念碑がありますが、このようなものは文化財の候補にはならないのか、それを少し聞きたいです。

志保澤文化財課長 それについては、かつて教育委員会の中で、一度検討したことがあります。慰霊碑という形で説明を受けており、慰霊碑ということになるとほかになかなか例がないということで、当時は見送りとなりました。ただ、本当にすべての慰霊碑が文化財として価値がないのかどうかというのは、まだ結論は出ていないので、今後また検討したいと思います。

和田委員長 基準を設けるとするのは非常に大事なことですが、今回のことに準ずるようなものがほかにもあるかどうかの調査もしているとのことです。大事なものをこれからも守っていきたいと思います。

小西委員 千葉市地域文化財や、ほかのものもですが、文化財に指定されたということを、千葉市民の方に周知をする方法があるのか教えてもらいたいです。

志保澤文化財課長 本日、議決をされたら、この先の手続としては、黒砂自治会の方たちに対して、地域文化財の登録証を交付する予定です。これは今までも実施しており、このときには市政記者等呼び、認定証をお渡しするとともに、教育委員会の広報や市政だよりでも広報します。さらに、ホームページでも紹介したいと考えています。

和田委員長 新聞報道もされる場合がありますよね。それはお願いするのはなかなか難しいかもしれませんね。

報告第3号 千葉市立学校職員服務規程の一部改正について

和田委員長 総務課人事・労務担当課長、説明をお願いいたします。

武人事・労務担当課長 報告第3号「千葉市立学校職員服務規程の一部改正について」説明します。

同規程の一部改正については、千葉市教育委員会組織規則第9条第1項の規定に基づき、教育長の臨時代理による処理をいたしましたので、同条第2項の規定に基づき報告します。

参考資料に様式の新旧対照表を載せています。今回の改正内容ですが、学校の市費職員、用務員、調理員、栄養士の一部の職員について、病気休暇の取得単位が、これまでは半日または1日単位であったものが、時間単位、1時間単位でも取れるということになったことに伴う所要の改正です。

これは、総務局が所管している市の職員も、千葉市職員の勤務時間、休暇等に関する規則で職員の病気休暇についても定めていますが、こちらがやはり半日、1日単位でしか取得できなかったものが時間単位により取得できるようになったということに合わせ、今回改正をしたものです。

3月下旬に総務局所管の規則が改正されたので、今回学校職員について、3月31日付で臨時代理で改正をしたものです。

報告第4号 県費負担教職員の処分について

委員長 教職員課長、説明をお願いします。

教職員課長 「県費負担教職員の処分について」、報告します。

本来、教職員の処分については、千葉市教育委員会組織規則第8条4号の規定に基づき議案として審議いただく案件ですが、定例の教育委員会会議の時期を待つことが学校運営上影響があるため、同規則第9条第1項の規定に基づき、臨時代理により処理を行いました。

処分者は当事者である千葉市立貝塚中学校教諭、吉野宏を免職とし、管理監督責任として、同校の教頭、●●●を減給10分の1、1月とし、同校の校長、●●●●を、本事案に関する管理監督責任並びに別事案である公印の不正を行ったものとして減給10分の1、6月としたものです。なお、●●校長については、3月25日付で依願退職をしました。

今回の2つの事案についてです。まず最初に、学校徴収金の着服についてですが、当事者である教諭が本年度4月から12月にかけて、保護者からの学校徴収金合計493万8,676円を着服し、入院費、治療費、生活費、遊興費等に充てていました。着服した金額は2月20日の段階で全額返済されています。

なお、2月27日にこの件について既に記者会見を行い、新聞報道もされていますが、その際に教育委員会として「告訴に関して検討する」と発表しました。その後、関係機関と協議を進め、最終的には当事者が罪を認めて全額を返済していることや、既に新聞報道され、社会的制裁を受けているという事情等により、教育委員会として告訴は見送ることとしました。

次に、校長の公印の不正についてですが、校長については昨年7月下旬、悪意はなかったものの、公印が欠けてしまったために、見栄えを優先し、千葉市教育委員会公印規則に反してみずからの判断で新調し、9月以降その公印を使って、教育委員会に提出す

る書類、あるいは高校へ提出する調査書、願書等に使用したことが、総務課への相談から3月4日に判明しました。

既に提出されている高等学校への願書、調査書については、正式な公印をもって訂正し直すことで対応するというので、千葉県教育委員会及び千葉県私立中学高等学校協会の了解を得ましたので、これまで訂正の作業を進めて参りました。本日の午前中に●●前校長から、すべての学校についての訂正が終了したという手紙が届いています。

教育委員会としては、特に最初の事案の学校徴収金の着服については、具体的な再発防止策として、1つに学校徴収金マニュアルの見直しを図ること、2つに管理方法における市費の会計検査を実施すること、3つとして校内での連携の強化を図ることなどを検討し、今後、学校徴収金や公印の適正な運用管理に向けた指導を徹底して参りたいと考えています。

委員 教えてほしいのですが、千葉市の給食費は、払っていない方のところへは徴収員が2人で集金に行きますが、この学校徴収金というのは、中身としては例えばどのようなものがあるのでしょうか。非常にブラックボックスで、大阪の桐蔭高校の事件ではないが、あのように教材費までも含むのか。また、徴収金というのは定期的に集めるのか、それともタイムリーに集めるのか。それによってはどこで監査するかを言っておかないといけないと思います。

学校徴収金というのは主に品目としてはどのようなものがあり、いつ集めているのか。集金は学校に任せているのか。それとも教育委員会である程度ルールが決まっているのか。その辺がわかかったら教えてください。

教職員課長 基本的に中学校の学校徴収金については、各学年の教材費、例えば副教材、これが最も額的には多くなっているのではないかと思います。また、給食費、教材費、旅行積み立て、1年生の修学旅行、2年生の自然教室、3年生は修学旅行という形になります。そのほか学年・学級費、生徒会活動費等、また、校外学習費、職場体験、そのようなものが入ってきます。

基本的に、新1年生については銀行口座を開設してもらい、6月から引き落としが可能になります。2、3年生については既に継続なので、すぐ4月から引き落としが可能になるのですが、今回の当事者は1年生の学年主任だったので、4月、5月分に

ついて、まず手集金で行われたものを着用してしまいました。

また、基本的に銀行に振り込まれるものなのですが、口座が開設できない家庭など、振り込みの期日に遅れてしまった場合、手集金で集めるような形になります。その手集金で集めたものについても着用がありました。

さらに、学年の振込口座があるのですが、キャッシュカードを使って、その口座から直接金をおろしてしまったということがあります。

現金で徴収することを学校現場からすべてなくすという形に持っていきたいところなのですが、やむを得ずそのような事情で、どうしても現金を扱わざるを得ない部分はあるのではないかと考えています。

委員 この校長は、1校目の学校なのでしょうか、2校目でしょうか。

教職員課長 この学校は2校目です。前任の学校で2年間校長を務めた後、この学校に昨年度の4月に着任をしています。

委員 この質問をした理由は、最近では1校で終わる校長が小学校で増えているからです。学校印の重さというのを自覚していたか。言いたいのは、たくさんの校長、教育委員会を経験した方ならば公印の重さはわかるのだが、ずっと現場にいた場合、公印は大事だが、欠けてしまったので良いのを買おうかという考えになってしまう可能性があるということです。

お願いしたいのは、新任校長の研修でこのような基本的なことは伝達してもらわないと、2年しかいない人は、事務的な手続について余り関係なく、まず学習していなくて、ついうっかりということがあり得るかと思ったのです。ぜひ新任校長研修でそれを言ってもらえると助かるなと思っています。

教職員課長 先般、4月9日の全体校長会でも指導し、明日は校長会からの要請を受けて、学校徴収金と公印とサービスや懲戒について、私から時間を取って全体校長会で指導します。

委員 着用是件ですが、4月から12月の半年以上も発覚しなかったというのは、少し異常かと思うのです。先ほど、手で集金せざるを得ない部分があるというのはそのとおりかとは思いますが、その集金したお金を一体どのように管理をしていたのか。また、口座からキャッシュカードで引き出すことが誰でもできる状態だったのか。そのあたりのことを教えてもらいたいです。

学校教育部長 まず、キャッシュカードですが、これは事件が起きた後にすぐ全校に調査をかけました。キャッシュカードが存在した学校は5校でした。実際に使用している学校はこの学校1校だけです。どうしても不便な地域では必要なときがあったかもしれませんが、現在使っている学校はこの学校1校でした。

現金で集める場合はどうしてもありますが、一番問題なのは部活動のお金です。これがやはり、学校には金庫がありませんので、どうしても教員の机の中に入っていたという現状は否めないところがありました。今回の指導の中では、耐火書庫と言われている重要な要録などをしまっておく書庫があるので、そこにきちんと校長が管理するようという指導を加えて、今後、再発防止に努めます。

もう1点は、4月から12月まで着服があったのですが、マニュアルの中では、月もしくは前後期にきちんと会計監査をすることになっていました。この辺も少し曖昧だったものですから、今後は月など会計の検査の報告のあり方も含めて、9月までに見直して、教育総務部と学校に、きちんとしたマニュアルを示したいと考えています。

委員長 今回の件につきましては、非常に遺憾なことをございまして、関係者の方及び市民の皆様には大変ご迷惑をおかけしてしましまして、まことに申しわけないことをございまして。今、部長からも話がありましたが、再発防止には心して努めるようにしてもらいたいと思います。

8 その他

第5回定例会は、事務局において日程を調整の上、開催日時を決定することとした。

9 閉会

和田委員長より閉会を宣言